

家庭教育学級長さん応援つうしん

手塩教頭先生

かてきよー  
NO.130



かなえママ

きよーくん

令和6年11月発行

中濃県事務所 振興防災課 振興防災係

家庭教育担当：塚原

〒501-3756 美濃市生櫛 1612-2

TEL：0575-33-4011 (内線210)

FAX：0575-35-1492

# 美濃市 美濃ふたばこども園 インクアート体験

～体験活動を通して親同士の交流を深めよう～

美濃市の美濃ふたばこども園で、9月13日(金)に行われた「インクアート体験」の様子をご紹介します。

## 【主催者の願い】

「日々、子育てで慌ただしい毎日を送っているお母さんたちに、自分の時間を楽しんでもらいたい。」「体験活動を通して保護者同士が交流し、つながりができるようにしたい。」そんな願いのもと、初めて「インクアート体験」を企画しました。



## 【当日の様子】



講師は、美濃市在住の山岡江美子さんです。はじめに、ご自分の作品をご紹介いただき、「誰でも簡単に、楽しく作れるのですよ。」とお話されました。

参加者の皆さんによるインクアート体験がスタート。まずは、自分の好きなインクの色を3色選び、紙の上でドライヤーを使用してインクを流していきます。風に吹かれたインクが予想しなかった絵を描いていきますが、参加者は「それが面白い！」と、楽しそうに手を動かしてみえました。



「うわーっ、海の中のような絵になった!」「明るい色の組み合わせも素敵!」「家に帰って、家族に見せてあげたいな」などの歓声があがり、皆さんの笑顔が印象的でした。

#### 【参加者の感想】

- とても素敵なインクアートができて、感動しました。楽しい時間でした。家族に見せて、部屋に飾るつもりです。
- 初めて会ったお母さん方と、賑やかにおしゃべりしながら体験しました。おかげさまで、すっかり打ち解けて仲良しになることができました。
- いつも様々な活動に参加させていただき、私にとって家庭教育学級は、生活の中の大事な気分転換になっています。ありがとうございました。

#### 【主催者の感想】

初めての活動でしたが、参加者の皆さんに好評で、嬉しい感想が聞けてよかったです。日頃忙しいお母さんたちが、この時間だけは、自分の楽しみのために使える・・・そんなひとときを作れるよう、これからも活動の幅を広げていきたいと思っています。



#### 【取材を終えて】

今回の体験会で初めて会話を交わされる保護者の方もみえましたが、インクアートを通して、交流の輪の広がる機会となったのではないのでしょうか。

右上の写真のように、インクアートを、携帯ケースなどにも活用できるそうです。

# 関市立 むげがわ保育園

## シートベルト着用効果体験

～かけがえのない命を守るために～

関市のむげがわ保育園で、JAFと岐阜県が共同で進める「キッズセーフティ事業」の一環として、9月6日（金）の祖父母参観日に合わせて交通安全教室が開催されましたので、その様子をご紹介します。



### 【主催者の願い】

子どもたちの大切な命を守るために、保護者や祖父母の皆さんに、ベビーシートやチャイルドシート、シートベルトの重要性を学んでほしいと願って計画しました。

### 【当日の様子】



JAFの方から交通事故のお話を聞いたり、親子でDVDを視聴したりし、シートベルトの重要性について学びました。

シートベルトは、150cm以上の身長を目安としています。それより小さい子は、シートベルトが首にかかる危険性があるため、ジュニアシートを活用してほしいとの説明がありました。



チャイルドシートを取り付ける時には、背もたれを倒して隙間をつくりチャイルドシートを固定させてから、最後に背もたれを起こして密着させるようにしてください。



シートベルト着用効果体験には、年長児の親子約 60 人が参加されました。体験の様子は、年中児、年少児、そして祖父母の皆さんも見学されました。

体験車は時速5Kmのスピード（早歩きスピード）でコンクリートの壁にぶつかる設定がされていますが、ぶつかる時の衝撃は大きく、親子共々シートベルトの大切さを実感することができました。

#### 【参加者の感想】

- チャイルドシートの必要性などを学ぶ、よい機会をいただきました。孫が帰り道、「抱っこしていた赤ちゃんが飛んでいったね。危ないね。」と、話してくれました。子どもなりに学んで心に残ったようでした。大人がしっかりとチャイルドシートをつけて、安全を守ってあげなければと思いました。
- 初めてじっくりとチャイルドシートの大切さを知ることができました。「命を守るチャイルドシート」の言葉の重みを感じました。JAFの方の説明もわかりやすく、シートの取り付け方もよくわかりました。実際に衝突した時のシートベルトの役割の大きさも体験でき、たくさん大切さが伝わってくる時間になりました。

#### 【主催者の感想】

皆さんが、真剣に話を聞いたり、体験したりしてくださったので、この事業を計画して良かったと思いました。

また、年長児親子のシートベルト着用効果体験では、祖父母の方々にも声をかけ、実際に体験していただくこともできました。親子だけではなく、祖父母の方々にも広く参加していただくことができ、祖父母参観日に合わせて実施してよかったと思っています。



#### 【取材を終えて】

今回の家庭教育学級から、祖父母も含めて、子どもを車に乗せるときは、必ずチャイルドシートに乗せて命を守ることが大切だと、あらためて実感しました。



# 関市立 津保川中学校



## いのちの授業



### ～赤ちゃんのぬくもりを実感～

9月30日(月)に津保川中学校で、関市保健センターが実施する「いのちの授業～赤ちゃんふれあい体験～」が行われましたので、その様子をご紹介します。

#### 【主催者の願い】

関市では、中学校が乳幼児とのふれあいを通じて命の大切さを学ぶ「いのちの授業」が行われています。コロナ禍でいったん中止していた「赤ちゃんふれあい体験」は、今年度から市内すべての中学校（3年生対象）で再開することとしました。

#### 【当日の様子】



「うわーっ、重いなあ」7キロのジャケットを身に付けて妊婦体験。



お母さんや赤ちゃんにご対面。最初は緊張していた生徒たちもお母さんの話を聞きながら、次第に赤ちゃんと仲良しになっていきました。



「お腹の中でこんなふうに育っていくのよ。」写真を見せながら説明されるお母さん。



ご自分の赤ちゃん日誌を見せながら、その時の思いを語ってくださったお母さん。



命がけて出産された時の様子や気持ちを話してくださったお母さん。



赤ちゃんとのふれあいタイムでは、おそるおそる抱っこする子、積極的に「おいで！」と手を出す子など様々でしたが、どの中学生も、いとおしそうにそっと抱いている姿が印象的でした。

授業が終わってからも、名残惜しそうに玄関まで見送りをする姿が見られました。

この後の教室では、助産師さんや保健師さんによる性教育の授業も行われ、真剣に学ぶ様子が見られました。

#### 【参加者の感想】

- 初めて妊婦体験をやったけれど、まず足首が見えないこと、とても重かったこと、そしてしゃがむのも一苦労で、妊婦さんが大変なことがわかりました。(生徒)
- 赤ちゃんを産むということは、命がけということがわかりました。お腹の中の写真を見せてもらった時、ちゃんと人の形をしていてすごいなと思いました。親に感謝して、命を大切にしていきたいと思いました。(生徒)
- 今、当たり前前に過ごしている時間は当たり前ではなく、両親が僕をここまで大切に育ててくれたからあるのだと気付きました。いつか、感謝の気持ちを伝えたいです。(生徒)
- 今日出会った中学生の皆さんも、大切に育てられたひとりひとりです。それを認識して、ぜひ自信をもって生きてほしいと願っています。(お母さん)
- 出産の大変さだけでなく、子を大切に思う親心が伝わったらいいなと思って交流しました。私にとって、とても有意義で、大切な時間になりました。(お母さん)

#### 【取材を終えて】

この授業には、お孫さんと一緒に参加された関市長さんをはじめとして、多くの地域の方々が参加・参観されました。また、校長先生をはじめとする多くの津保川中学校の先生方も会場で生徒たちの体験の様子を見守られ、私自身もあらためて「いのちの授業」の大切さを実感しました。

